

## 侵入警戒調査で発見されるミバエ類(Ⅳ)

これまでミバエ各種の識別を中心に解説を行ってきたが、今回は侵入警戒調査で特に発見頻度の高い種、あるいは混同されやすい種について解説する。

### 1. ミスジミバエ

本州以南のほぼ全土に分布し、個体数も多いので目にする機会の多いミバエである。体長は約10mmで一見黒味を帯びた体色をしている。胸背には3本の黄色縦帯があり、小楯板の先端には黒い斑がある。形態的によく似ていることからカボチャミバエと混同されやすい。また、本虫の雄成虫はキュウルアに誘引されるので、侵入警戒調査のトラップでの発見頻度が高い。成虫はカボチャなどウリ科植物の花のつぼみに産卵し、幼虫が花のつぼみを食べるが作物への加害はない。

### 2. カボチャミバエ

日本全土に広く分布し、カボチャ、ユウガオなどウリ類の害虫で被害は山間地や高冷地に多い。本種の成虫はミスジミバエより、やや大形で全体的に淡黄色をしている。形態的にはミスジミバエによく似ていることから混同されやすいが、本虫には小楯板の先端に黒い斑がない。雄成虫はキュウルアなどの誘引剤に反応しないので、通常、侵入警戒調査のトラップで発見されることはない。本種は本州中部以北では年1化性で、成虫は7～9月頃出現し寄主果実に産卵する

が、西南暖地での発生回数は不明である。幼虫期

間は約1か月で果実から脱出し、土中で蛹化、越年する。

### 3. クスノキミバエ

本州西部以南に分布し、タブなどクスノキ科の果実に寄生する。本種は栽培植物には寄生しないが、成虫がミカンコミバエによく似ているので混同されやすい。成虫の胸背にある黄縦帯はミカンコミバエに比べやや短く翅内刺毛に達せず、小楯板の先端には褐色斑がある。

### 4. テリハボクミバエ

沖縄県の宮古群島、八重山群島に分布し、オトギリソウ科のテリハボクに寄生する。本種はミカンコミバエによく似ているため、ミカンコミバエの寄主植物でもあるテリハボクの果実調査の際には注意が必要であるが、本種には翅の基部から後縁部に達する褐色斜紋がなく、ほぼ透明である。

### 5. オウトウハマダラミバエ

関東以北に分布するサクランボの害虫で、ヤマザクラの果実にも寄生することが知られている。本種の成虫は4月下旬から5月上旬に羽化し、サクランボの果実に1～数個の卵を産むが、発育できるのは1果につき3頭までであるといわれている。成虫は体長約6mmで黒褐色をしており、翅は透明で黒褐色の斑紋がある。



ミスジミバエ



カボチャミバエ



クスノキミバエ



テリハボクミバエ



オウトウハマダラミバエ